

一羊会だより

発行
 社会福祉法人一羊会
 事務局 〒663-8241
 西宮市津門大塚町1-47
 電話 (0798) 31-1760
 FAX (0798) 31-1763



今号の表紙を飾ってくれたのは、上甲子園すずかけ作業所の利用者と職員の皆さん。10月7日に日帰り旅行で訪れた「信楽たぬき村」での集合写真です。大小さまざまな狸の置物に囲まれながら、皆さんとても素敵な表情で写ってくれています。この「信楽たぬき村」では近江牛のすき焼き膳を食べ、陶芸教室に参加、その後「甲賀流リアル忍者館」にも訪れ、滋賀の旅を満喫した皆さん。本編でも旅行の様子を紹介していますので、是非ご覧ください。

特集

- オンライン実践発表会のご報告 3～6
- 上甲子園すずかけ作業所日帰り旅行・一羊園秋祭り ... 7
- あとりえずずかけ新聞
『君は手ぶらでやってきた～大阪お忍び編～』報告... 8・9



一羊会ホームページ
 へはこちらから

来年度に向けて



事業部長
松枝 千尋

日頃は、一羊会の運営にご理解とご協力をいただき、有り難うございます。

今年度、早くも12月となりました。5月から新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられ、それに伴い2020年から続いていた行動制限は緩和されてきました。一羊会でも通所事業所では、レクリエーションや日帰り旅行、イベントの開催やバザーでの販売、一羊園においても面会や帰省、季節の行事等を再開しています。

また、8月には市長要望書を提出しました。

「グループホームの安定した運営面への助成」「相談支援の受け皿が増えるようなプロセスの見直し」「移動支援の安定した事業運営のための単価の引き上げ」「利用者の特性に合わせた作業の発注」の4項目についてです。利用者が、住み慣れた地域であたりまえに働き、活動し、いきいきと暮らすことができるよう、行政とも話し合いを重ねながら取り組んでいく所存です。

来年度に向けては、報酬改定があります。目の前には、物価高騰や人材不足等、様々な課題が山積みです。どのような改定が示されるかの情報を集めつつ、利用者にとって、法人基本理念にもある「その人らしく社会の中で生きていく」ことを目指し、事業運営においても制度においても、しっかりと取り組みながら、歩みを進めていきます。

今年も実践発表会を開催しました！



事業部長
中村 喜弘

去る12月1日に『一羊会実践発表会』を行いました。昨年度に引き続き、今回もオンラインでの開催となりましたが、後日視聴も含め約100名のご参加をいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

実践発表会は、一羊会の取り組みを広く地域に知っていただくことを目的として2009年より開催しており、諸事情により開催できなかった年もありましたが、今年で13回目の開催を迎えることができました。昨年度は『高齢化対応』をテーマに、生活部門と活動部門から発表を行いました。今年度は法人全体で事業計画にも掲げている『意思決定支援』について、四つの事業所から発表させていただきました。

発表の内容については、取り組んだ事柄の完成された形ではないかもしれませんが、取り組みの意図や取り組むにあたって大切にしたいポイント、取り組んでみて分かってきた成果や課題、職員の試行錯誤なども含めて発表することも大切ではないかと考えています。実践発表会の機会を通して、広く多くの方に一羊会のことを知っていただき、また、一羊会といろんな方々とのつながりを持つ機会となっていましたら幸いです。

最後に、発表を担った一羊会職員の皆さん、お疲れさまでした！



社会福祉法人 一羊会 2023年オンライン実践発表会のご報告

一羊会の活動について多くの方に、より深く知っていただくために、今年度も実践発表会をオンラインで開催しました。「意思決定支援」をテーマに、生活部門、活動部門、児童部門、相談部門から発表させて頂いた内容について、ご紹介させていただきます。

『働く』を決める

上甲子園すずかけ作業所
宮川 達

今回私はMさんの就労選択について事例を発表しました。Mさんは特定子会社などで就労経験がりましたが、コロナ禍で体調を崩され退職後に上甲子園すずかけ作業所を利用することになりました。「一般就労をする」という目標の元、ステップとして上甲子園すずかけ作業所の利用でしたが、面談を通して将来のこと・過去の経験・自分のしたいことなどを自分で考え思い悩んだ末に「上甲子園すずかけ作業所で働きたい」という意思決定をされました。

取り組み当初は、Mさんがどのような仕事をしたいと考えているのかを引き出せるように聴く事を心掛けました。加えてMさんの想いを支援者が整理して返すことでMさんの意思決定のお手伝いになればと考えていましたが、取り組み後半はむしろMさんに引っ張られながら面談を組み立てていたように思います。Mさんの情報を集めようとする意欲やご自身を客観視しながら考えておられる姿は、凄いなと思いながら見ていました。その意欲が選択肢の幅を広げ、ご自身の得意と苦手を客観視できることによって選択肢が絞られ最終的な意思決定に繋がったのではないかと思います。振り返ってみると、様々な選択肢の中から自分のしたい事が明確になり始めたあたりからMさんの主体性がより出てきました。選択肢=可能性として考えるのであれば、支援者はその方の選択を信じ一緒に考えていくことが重要なことなのかもしれません。Mさんは「今は毎日がとても充実している」と話されていました。自身で考え、迷い、選択した結果が今の姿にあるのではないかと思います。

今回の実践発表により新たな気づきをいただきました。この事を日々の支援にも活かしていきたいと思えます。



ワンルーム
マンションの
清掃をする
Mさん



『これ、どう?』

～お子さんに合ったコミュニケーションを探して～

カノン今津
福田 瑞穂

カノン今津は、3才から中学2年生までと幅広い年齢層のお子さんが利用されています。診断を受けた方もいればそうでない方、また支援級へ通っておられる方もいれば通常級へ通っておられる方もおられ、それぞれの方が持っているニーズや課題も異なっています。その為、「一人一人に合った支援の方法を一緒に探していく場所」となるために支援を行っています。今回の実践発表会のテーマは意思決定支援についてという事で、私は6名のお子さんへの支援を紹介させていただきました。こちらでも、簡単に紹介します。

就学前のお子さんについては、発語がまだない方への絵カードを使った意思の伝達と、発語はあるがスムーズなやり取りが難しいお子さんに対して行った気持ちの言語化・「気持ちを伝えたら返答がもらえた」と安心できるための環境づくりについてお話をしました。また学齢期のお子さんに対しては、衝動的に動いてしまうお子さんへコミック会話を使いながら気持ちの図解をすると安心できた事や、言葉を使うタイミングをモデリングして練習してもらった事をご紹介しました。自分の気持ちを伝えるきっかけが掴みづらかったり、吐き出す場所があまりない事に困っているお子さんには、安心して気持ちを伝えるために必要な条件を一緒に考えてもらいました。

今回それぞれの方のニーズとそれに対応した支援の方法についてまとめたことで、お子さんの成長に合わせて必要となる意思表示の機会や種類はより多く複雑になっていくことを改めて感じました。学齢期に移ると学校で過ごす時間が長くなり、家族のフォローを受けられる機会も減るため、自分の意思を伝える手段を持つことがより重要となるのではないかと思います。加えて学齢期は成長に合わせてご本人の思いも複雑化していく時期です。支援者として、思いを整理し安心して伝えられる手段を一緒に探す役割を果たしていきたいと感じています。



ご本人の気持ちが混乱した際、すぐ確認できるように手元に置いていた言葉カード

『豊かな暮らしに繋げる為の意思決定支援』

地域生活支援センター ジョイント ホーム事業課
熊本 俊一 / 倉上 裕也

グループホームでは、現在65名の方が生活されています。日中は会社や作業所で仕事をして、夕方にホームに帰ってこられます。ホームは“家”と同じようにゆっくり過ごす場所であり、利用者本人がどのように過ごしたいか、本人の気持ち大切です。今回は、グループホームの利用者の一人の“思い”に沿った支援の取り組みについて紹介します。

Aさんが移動支援やグループホームを利用される中で、本人が思っていることや気になることを職員と確認することで安心して楽しみを持って過ごされています。一方で、職員とコミュニケーションを上手に取れなかったり、気持ちを伝えることが出来ないと思っていることや気になることで頭が一杯になってしまい動けなくなることがありました。また特定の職員には、本人が言葉にして伝えることも出来ていますが、特定の職員以外には伝えられないことも多くありました。その為、Aさんがどの職員でも自分の気持ちを伝えることが出来る環境や本人が職員に伝える上で手がかりとなるツールを整える必要性を感じました。その為、意思表示が出来る支援の検討を行い、導入して行きました。

まずは移動支援での行き先や、食べたい物等、本人の要望を汲み取る為の支援から取り組みを始めました。理由としては毎回では無いのですが、Aさんが要望を職員に伝えられなかった際、立ち止まってしまう外出を楽しめないことがありました。その為、意思表示を行えるツールを作成しました。作成の際は本人のストレングスを活かした物にする事を意識しました。ツールを活用した結果、本人が自発的に行き先や食べたい物等を選択し、ガイドヘルパーをリードして行動される場面や楽しまれている様子が窺えることが増えました。その為、グループホーム内でも意思表示の支援を導入して行きました。グループホーム内ではAさんが選択して決定する機会が主に余暇の過ごし方と限られていたので、今まで選択に組み込んでなかったグループホームでの過ごし方(スケジュール)や、どの職員と一緒にしたいか等を選択する機会として増やしました。

選択する方法はAさんが意欲的に出来るように好きなキャラクターを活用し、絵カードで選択出来るツールを作成しました。その結果、選択・決定する機会が増え、本人が意欲的に行動し楽しんで過ごされることが更に増えたように感じました。

今後もAさんの思いを大切にしながら意思表示が出来る場面を増やしていき、豊かな暮らしに繋げることが出来ればと思っています。



グループホームで
Aさんが活用している
予定ボード



『相談支援について』 ～こんぱすって何してるところ？～

相談支援事業課 こんぱす
仲塚 千夏

私たち相談支援専門員が作成している本人中心支援計画（サービス等利用計画）は、本人の思いや希望をもとに、本人の生活を総合的に支援するための計画です。そのため、相談支援において意思決定支援は不可欠なものです。しかし、大事だとわかっていても、本人の思いを確認することが難しいと感じることもあります。

本人の思いを確認する際に、口頭で話を聞くだけではなく、絵カード等を用いて話を聞かせてもらう方もいます。また、お話しできる方でも会議では緊張してうまく話せない方や、文字で質問したほうが理解しやすい方等にはアンケート式の質問用紙をお渡しして答えてもらっています。しかし、本当に自身の思いなのかわからないこともあり、聞き方に工夫や配慮が必要だと感じることも多くあります。また、事業所やグループホームの利用を考えていく中で、本人が経験したことがあり、イメージしやすいことなら選択することや決定することができますが、経験したことがないと選択できない方もいます。そのため、実際に見学に行き、体験をする中で選択してもらうことが多いです。

今回発表させていただいたAさんは、長年グループホームの利用を希望されており、4か所のグループホームを見学し、そのうちAさんが決めた2か所の体験宿泊を行いました。その後、家族のサポートもありながら、Aさん自身がホームを利用するかを決めました。ホーム入居後も色々な思いを抱えながら生活されており、家族や支援者で話を聞きながらホームでの生活を見守っています。以前からAさん自身が選んだり決めたりすることを家族も大事にされてきました。Aさんの事例を通して、選んだり決めたりする経験を積むことは大事だと感じました。

今後も相談支援を行う際に、本人はどう思っているのか、相談員の思い込みや決めつけにならないか、家族や支援者の意向に流されていないか等意識しながら取り組んでいきたいと思えます。

本人中心支援会議とは

本人中心支援計画を作成するため、本人を中心に、本人のことをよく知る家族や事業所等で集まって会議を開きます。





上甲子園すずかけ作業所の 日帰り旅行



10月に、上甲子園すずかけ作業所の利用者の皆さんと職員が日帰り旅行に出かけました。行先は滋賀県にある「信楽たぬき村」と「甲賀流リアル忍者館」です。朝9時過ぎ、貸し切りバスに乗り込み、トランプをしながらワイワイ楽しく出発しましたが、高速道路で大渋滞にハマって到着はお昼前。予定していた工程表通り行動できるのか、一時はかなり危ぶまれましたが、近江牛のすき焼き膳を頂いて陶芸教室に参加、忍者館もしっかり堪能することが出来ました。コロナ禍が明けてから初めての作業所メンバーでの遠出は、利用者さんも職員も笑顔の絶えない楽しい旅行になりました。



一羊園の秋祭り

2023年11月8日に一羊園の秋祭りが行われました。暖かい日差しの中、園庭にテーブルを並べ、利用者さん全員で焼きそばやネギ焼きといったお祭りメニューのランチを食べました。食事の後は、駄菓子やジュースがもらえるコーナーや、輪投げなどのゲームコーナー、仮装して写真撮影が出来るフォトスポットなどを皆さんそれぞれのペースで周りながら、職員と一緒に楽しい時間を過ごされていました。



あとりえ すずかけ 新聞

第29便 2023.12
撮影／編集：神田 浩平



ART EXHIBITION
君は手ぶらでやってきた
〜大阪お忍び編〜

開催 2023 11月18日(土) - 19日(日)
11月25日(土) - 26日(日)

兵庫県西宮市に
知的障がいのあるみなさんが働く作業所があります。
彼らは作業所で仕事をしながら絵を描いています。

日常生活では知り合う機会が少ない彼らですが、
今日はぜひ、自由に描かれた線や形、色合いを通して
彼らの発想にふれてみてください。

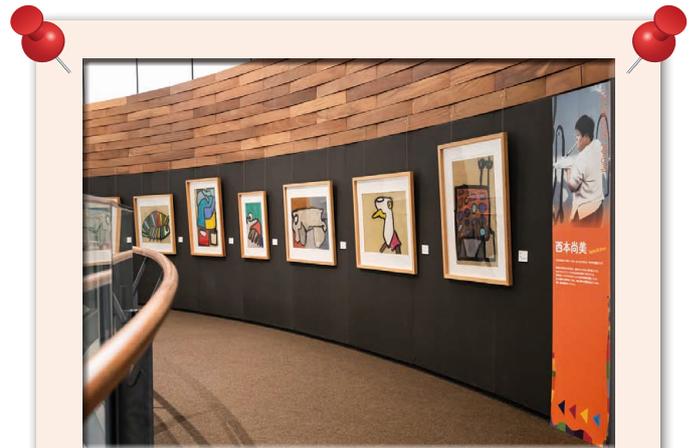
彼らとあなたの間で楽しい対話がうまれます。

企画協力 社会福祉法人一羊会・あとりえすずかけ
兵庫県 西宮市 西宮区 西宮南 1-1-1 読売テレビ本社

ytv 2Fにて開催
大阪市中央区城見1丁目3番50号 読売テレビ本社

2023年11月18日～26日の期間の土曜日と日曜日に、読売テレビ本社社屋で、すずかけ絵画クラブメンバー4名、尼崎昌弘さん、西本尚美さん、小山充基さん、竹村幸恵さんの展覧会が開催されました。展覧会タイトルは『君は手ぶらでやってきた〜大阪お忍び編〜』としました。過去にすずかけ絵画クラブが開いてきた展覧会「君は手ぶらでやってきた」のスピノフ企画としての位置付けで、読売テレビのマスコット「シノビー」にもかかっています。期間中には読売テレビ主催のフードフェス「シノビーもぐもぐパーク」が開催されていて、展覧会にも多くの方が足を運んでくださいました。

11月17日には尼崎さん、小山さん、竹村さんの3人をお連れして、展示を観に行きました。テレビ局の巨大なホールに自分の絵がかかっている光景を前に、皆さん驚きと喜びが交じったような表情をしていました。



現在は他法人の施設を利用されている西本さんのコーナー。2000年代に描かれた8枚の作品が展示されました。



読売テレビ・サスティナビリティ部の社員さんに自身の作品解説をする尼崎さん。



読売テレビの社員さんから挨拶され、名刺を受け取る竹村さん。



円形ホールの2階通路の壁面に作品が展示されました。通路からは1階のイベント会場を見渡すことが出来ました。



2010年代に木の板に描かれた小山さんの作品。



昼食の席にて。終始ご機嫌だった小山さん。



30枚の作品がズラリと並んだ竹村さんのコーナー。

NEWS!

知的障がいのあるアーティストの活動を支えるための事業を展開する『株式会社 egakumo』さんが、すずかけ絵画クラブの一部メンバーの作品をウェブギャラリーにて紹介してくださっています。QRコードより是非ご覧ください。



egakumo

CONCEPT OUR WORKS ARTIST EPISODE 0 COMPANY CONTACT

MASAHIRO AMASAKI VIEW ALL
尼崎昌弘



TETSUYA ITO VIEW ALL
伊東鉄也



インターンシップのご紹介

一羊会では、学生さんに向けた1 day仕事体験（実務型）を実施しています。ふきんの縫製や、お菓子を製造する現場などでの体験を通じ、学生さん達に支援員の仕事を身近に感じてもらっています。

写真で紹介しているのは、おかし工房での仕事体験の様子です。利用者さんの仕事内容や働き方、支援員の関わり方や作業環境づくりの配慮など、担当者が説明を交えながら、目で見て感じてもらいました。参加された皆さんには、ビスケットの型抜きや、生地の手量など、利用者さんが行っている仕事も体験してもらいました。慣れないうちは難しいビスケットの型抜き作業に学生さん達も苦戦していましたが、利用者さんからアドバイスをもらったりしながら、皆さん少しずつ感覚を掴んでいました。

現場体験が終わった後には、担当者とのフィードバックの時間があり、参加した学生さん達が仕事体験を通して感じたことを色々と話してくれました。



インターンシップを通して

インターンシップ担当 斯波 幸人

一羊会では、企業からの下請けで金属・プラスチック部品などを組み立てる内職作業、公園や河川敷の除草清掃作業、マンション・ビルの清掃などの屋外作業、自転車リサイクル、さらには布巾や菓子、石鹼、紙漉きなどの自主製品制作など、多岐にわたる仕事に携わっています。これらたくさんの仕事に携わるたくさんの利用者職員がいて、毎日変わらず一所懸命に働いています。

そんな利用者の中には、クッキー・ビスケットを焼くオーブンの管理が神業のような人、ミシンを直線に走らせるのがすごい人、職員にポリッシャーの使い方を教えたことがある人など、得意なことに力を発揮されている方がたくさんいらっしゃいます。一方で職員は利用者の得意なことを探り、どうやって皆さんに力を発揮してもらうかを日々考えています。そんな利用者職員が切磋琢磨しあって仕事を進めていく様子は、しょうがいの有無を超えたまさにチームワークの賜物です。

「そんな一羊会をたくさんの学生の方に知ってほしい」「見てほしい、みなさんが働く姿を」という思いでインターンシップを実施しています。インターンシップ仕事体験は、参加いただいた方に、将来の自身の仕事について考えていただく場であると考えています。しょうがいのある方や職員が実際に働いているところを見ていただき、参加者自身が「働くこと」とはどのようなことかを体験を通して考えていただきたいと思います。参加者の方が将来を考えるときに、少しでもインターンシップで体験したことが参考になったらいいな、と思います。そして将来、たくさんの方が福祉に関わる仕事に就いてほしい（できればうちのところに来てほしい）な、と願っています。

一羊会では他に、入所施設やグループホームなどの生活支援、ガイドヘルプなどの余暇支援も行っています。今後のインターンシップでは、働くこと以外の生活や余暇についても、利用者や職員の様子を見ていただく機会を持ちたいと考えていますので、ぜひご参加ください。



助成金の御礼

一般財団法人 高友福祉積善会 様



・すずかけ作業所

一般財団法人高友福祉積善会様より福祉事業助成金を頂き、リハビリ用の平行棒とタブレット2台、ロボット掃除機を購入させて頂きました。平行棒は、利用者の身体機能維持のリハビリで使用させていただきます。タブレットは利用者の余暇で使用させていただきます。ロボット掃除機は、4階のホールでの活動後に清掃で使用し、業務の効率化につながります。この度はありがとうございました。



・一羊園

一般財団法人高友福祉積善会様より福祉事業助成金を頂き、コードレスタイプの掃除機を5台購入させて頂きました。少し手の空いた時間に掃除を小まめに行うことで、施設内の衛生環境を一層整えたいと思います。この度は本当にありがとうございました。



法人・事業所御寄付の報告（敬称略・順不同）

2023年7月1日～2023年10月31日

*法人

一羊会後援会 中田智恵海 三浦 昇 香櫨園コミュニティ協議会 4件

*一羊園

高友福祉積善会 匿名 井上和巳（2件） 岩原裕子 田中美英子 芝 桂子 西村方子 森野和雄 9件

*武庫川すずかけ作業所

平野弘子（5件） 5件

*ジョイント

藪亀まゆみ（2件） 2件

*児童通所支援

古川 勝 1件

*上甲子園すずかけ作業所

山本加津美 上甲子園すずかけ作業所保護者会 2件

いつもご協力・ご支援ありがとうございます!!

2023年度一羊会後援会会費（敬称略・順不同）

（2023年8月1日～2023年10月31日までのご入金分を掲載）

*法人・団体の部

(株)新井組 (株)岡崎石材店 2件

*個人の部

今西永兒 大川裕紀 緒方満智 岡村英幸 小川加代子 久保田晴子 関本弘子 高野重子
前川拓郎（5口） 光武真里 10件

2023年度一羊会後援会御寄付（敬称略・順不同）

（2023年8月1日～2023年10月31日のご入金分を掲載）

*法人・団体の部

社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所 1件

*個人の部

井上尚子 大目修平 小川加代子 神結慶子 久保田晴子 堺 孰 長谷川幸 前川拓郎 匿名希望 9件

【口座名義】一羊会後援会

【銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061

【郵便振替口座】01190-8-66322

※受領証については、払込取扱票の振替払込請求書兼受領書をもって後援会の受領証とさせていただきます。

別途受領証が必要な場合はお知らせください。

※現金振込時の手数料について、振込手数料は後援会負担としておりますが、現金でお支払いの場合は別途110円の手数料がかかります。誠に恐縮ではございますが、何卒よろしくお願いいたします。（うち銀行の通帳やカードでのお支払い時には手数料はかかりません）



訃報

一羊園を利用されていた吉村圭司さんが、ご病気の為、2023年11月27日にご逝去されました。同じく一羊園を利用されていた岡田宏之さんが、ご病気の為、2023年11月30日にご逝去されました。謹んでおふたりのご冥福をお祈り申し上げます。